

# やまなし食のマッチングフェア in TOKYOに初出展

●一般社団法人やまなし美味しい甲斐

TOPICS

7月21日、一般社団法人やまなし美味しい甲斐(小池通義代表理事)は、東京都新宿区の京王プラザホテルにおいて開催された「やまなし食のマッチングフェア2016 in TOKYO」(主催:株式会社山梨中央銀行)に出展した。

同フェアの都内での開催は4回目で、首都圏の百貨店、スーパー、商社の食品バイヤー等約1,000人が来場した。当法人からは、プチ・プラム、青木農園の2社が出展したほか、県内の農産物生産者や山



個別相談会での商談

梨県製麺協同組合、山梨県漬物協同組合、山梨県食品工業団地協同組合の組合員など食品製

造加工業者53社に加え、県内市町村や観光協会の10団体が出展し、各ブースで商品説明・観光PRを行った。また、個別商談会では全体で約2,300件の商談が行われた。

やまなし美味しい甲斐は、平成26年に設立以来、商談会への出展だけでなく単独商談会も開催するなど、販路開拓を行ってきた。今回の個別商談会では、カタログショッピングでの販売、物産展への出展、常設販売などより具体的な商談を行うことができた。

カタログショッピングでは、商品ロットの問題、カタログ作成代の一部負担、半年前に提案する必要があるなど各社の商品情報を整理し、事前準備の必要があることがわかった。物産展への出展に際しては、実演販売は「音」と「におい」によりお客様を呼べるかどうか重要な要素であり、生産者の思いを



美味しい甲斐ブースでの商談

いかに伝えるのかが成功の鍵であると説明された。常設の販売では、窓口の一本化、商品の発注・補充など取引条件の設定が重要であり、法人が窓口となり継続して交渉をするよう要望があった。

今回は、過去行ってきた3回の商談会の出展の中で一番感触がよく、見積書の提出、商談の継続、現地への訪問依頼など今後につながるものとなり、新たな販路展開の期待が高い。